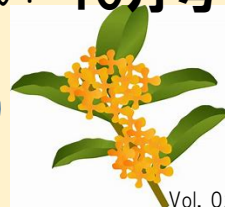


昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 026

コロナ禍からの回復に対する期待から原油の需要が急速に高まり、原油価格の高騰が続いています。農業資材・肥料の価格もこの影響で高騰しており、生産者様のコスト面の関心も例年になく高いことから、販売側として費用対効果の最適化をアドバイスする必要があります。

圃場と相談した土づくりの継続

限りある生産費の中で、どの資材を選択するかは非常に大切です。まず、無駄なものを省く必要がありますが、何が無駄なのか知るには、①土壌診断結果②今期の作況把握③使用してきた肥料履歴

これらを振り返ってください。そこに必ずヒントがあります。

単純に「3要素は必要、あとは余裕あれば…」と考える残念なケースが多いようです。3要素は十分な量を施用しても「うまく利用されていない」から十二分な量を施用し辻褄を合わせるのですが、気象条件や初期生育の失敗の為に返って多肥が障害を助長する。つまり、「コストをかけて結果悪し」となることを絶対避けねばなりません。

上手く利用させるための土づくり

作物に無駄飯を喰わさずスクスク育てる、そのためには

- 生育初期の管理(根と初期葉を充実したものに工夫が大事!)
肥料分野…作付け前の余裕を持った早めの酸度調整、施肥
管理分野…地温の十分な確保(適期作付やマルチ利用)
適切な水管理、施設の場合は温度管理(ジックリ型)
- 適期に肥効を発現させる
適期追肥や作物・地域特性に合致した肥料を使う
(手間も時間もかけず、安価資材での安定生産には強運が必要…)
- 根傷みリスク軽減の保険となる成分(鉄・ケイ酸)
根傷みの主原因(アルミ、酸欠状態)への備えをしておく
根に酸素が供給される土づくり(有機物連用での団粒構造、中耕実施)

地上部の初期生育が、やや遅い・やや小ぶりなのに、作の後半には充実して追いついて来る、そういった生産者様がおられたら、どうしているか聞いてみてください。そこにヒントがあると思います。



粒状 ひかりGF (ゴールドエフ)

ケイ酸、鉄、ミネラル、アルカリ分が根優先の生育を後押しします。NPKの有効活用の下地作りに最適です。